

先輩が好き

かもしれない

後輩が

先輩が大好きな

後輩と

@lno_ji
いちのまるく

先輩と

ハチャ メチャ エッチ

R18

カーヴェ×アルハイゼン

の
話

恋とは
不可解なものだ

教令院生時代
あの頃の俺は
才能溢れるカーヴェに
恋をしていた

共同研究中に
関係が破綻し

カーヴェと
決別する事になった時は
少し喪失感を覚えたが

次第に恋心は
消え去った…はずだった
気持ちは切り替え
1人で生きていける
ように努めて

もう
一人の
俺？

ええ

今朝
生まれたの

ジュニヤーナガルバの日
神の伝説知識に
接続した際に

世界樹に俺の情報が
流れ込んだ

その情報を元に
世界樹から
生成された存在…

だが…

俺は
カーヴェへの恋慕が
具現化した姿だ

初恋をだいぶ
拗らせたようだな

君は

フッ

どうやらあの頃の恋心は消滅したわけではなく

心の奥底で育ち続けていたようだ

形を成すほどに

彼は泡沫のように儂い存在…
いずれ世界樹に還っていくわ

それまで面倒を見てあげて欲しいの

分かりました

ありがとう
助かるわ

他人に任せるよりは
良いだろう

まさか自宅に引き取るとはな…
カーヴェに俺を会わせて良いのか？

構わない

俺にはカーヴェへの恋心の自覚が無い

自覚がある俺がカーヴェに何をするのか少し興味がある

だがカーヴェは今長期出張中だあと1週間は戻らな…

ただいまー！！

帰ってきたようだな



おかえり

アルハイゼンが
2人に見える…

僕は気づかずに
ワインを飲んで
しまったのか？



あ 勿論
土産の代金は自分の
財布から…

お土産にワインを
買ってきたんだ
今夜一緒に飲もう



驚いたか？
工事が早く
終わってね！

朝一で帰って
きたんだ！



な…なるほど
赤い目の
アルハイゼンは
いずれ消えるのか…
儂いな

恋心のことは
伏せて説明した

はは…
君が一番
似合わない
言葉だ



目の前の光景は
飲酒による
幻覚ではない

説明する



行ってくる

ズア

ズ

な…っ！
人がせっかく…

行って
らっしゃい！

彼の世話を
必要はない
君は君の用事を
すると良いよ

カーヴェ



君 そろそろ
出勤時間だろ
もう一人の君の
世話は僕に
任せてくれ

俺は家から
出ない
安心しろ

家の中では好きに
させてもらうがな

ふむ



まあ…そうか
アルハイゼン
だもんな

本さえ
あれば…

本人の意見を
尊重すべきだと
思わないか？

俺は
世話をして
貰いたいんだが

先輩

え？



汗の匂いがする…♡

あ…汗臭いって？
砂漠から帰った
ばかりだからな

俺は君と
セックスがしたい

そのまま
いい

シャワーを浴びて
来

セ…ッ!?



僕の
アルハイゼンはい
そんな事言わない！
解釈違いだ！

もう一人の俺も
君のものでは
ないはずだが

それは…その…

気になることは
そこだけか
ではいいだろう

あ…え…

もしかして…
本物の
アルハイゼンも
僕とシタがって
いるのか？

さあ？
俺は俺
あいつはあいつだ

俺はカ『ヴエ』を求める
衝動が本物より強く
もはや本能に近い

同じ木に実った
果実だとしても
全く同じ形になるとは
限らない

ええ…

そして世界樹から
生まれた俺は
カ『ヴエ』が俺に
気がある事を知っている

この状況は何なんだ
頭がこんがらがって来た
整理させてく…ウツ

少し押せば
簡単に落ちるはずだ

君のアルハイゼンに
出来ない
ようなことを
俺にするといいい♡

アッ

ちゅ♡

ちゅ♡

ぬちゅ♡

ぬちゅ♡

レレ

レレ



君はいつも
感性に従って
生きているだろう

すま

すま

冷静になる
必要はないよ

びっ

だ…だめだ
僕には
アルハイゼンが…

僕の…
アルハイゼンが…

って聞いているか!?

聞いている
いる

ん…♡
硬くなって
きたな

ハッ

ハッ
ッ

すま

ああもう!
君って
やつは…!

すま

別個体でも君は君だな
先輩の言う事なんか
聞きやしない!

ん♡

ハッ
ッ

こうなったら
ヤケクソだ!



アルハイゼンを
征服しているみたいで
気持ちいい…っ



く…っ
こんな乱暴に
扱っても
健気に吸い付いて…



う…っ…っ



ドキ
ドキ

本人が望んでる
のなら…



はあ…っ
酷いことを
してるのに
君には罪悪感を
感じないな…

どう見ても
悦んでるし…



感じやすい
雑魚マンだな♡

アナニーの
し過ぎ
じゃないか？

か…カーヴェ
ちよつと待…っ
んおっ♡

おいおい
まだ指一本だぞ
音を上げるには
早すぎる

君が言ったん
だからな

僕の
アルハイゼンに
出来ないような
ことをしていい
ってさ

こ…これは
想定外だ…っ

カーヴェが
こんなに積極的に
俺に触れて
くるとは…

いっつ

おっ

おっ

おっ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん



ずっと 焦がれていた カーヴェエの 指が♡

執拗に前立腺を いじめて♡♡ たまらない♡♡

君の中 こうなって いるんだな

指だけでも 気持ちいいな 熱くて トロトロで...

君がアナニー 知っていることは 知ってたんだ

掃除の時に 君の部屋で アナニーグッズを 見つけてね

それは俺が無意識に 見つけやすい ところに 置いてたんだ

ずっと君の中に 焦がれてたよ アルハイゼン

おっん♡

カーヴェエが少しでも 俺をメスとして 認識するようにと

効果は絶大 だったようだ

んおっ♡

結構ほぐれたし

そろそろ 本番...

つ…ついに本番か…
やっとカーヴェエに
結ばれて

の前に

アルハイゼンの
ために作っていた

JUSTINマシン

君の身体で
試させて
くれ!

カーヴェエが
俺の
ために…

まさかこいつを
アルハイゼンに
使える日が来るなんて
嬉しいなあ!

おおおお!? ♡



ま

待って

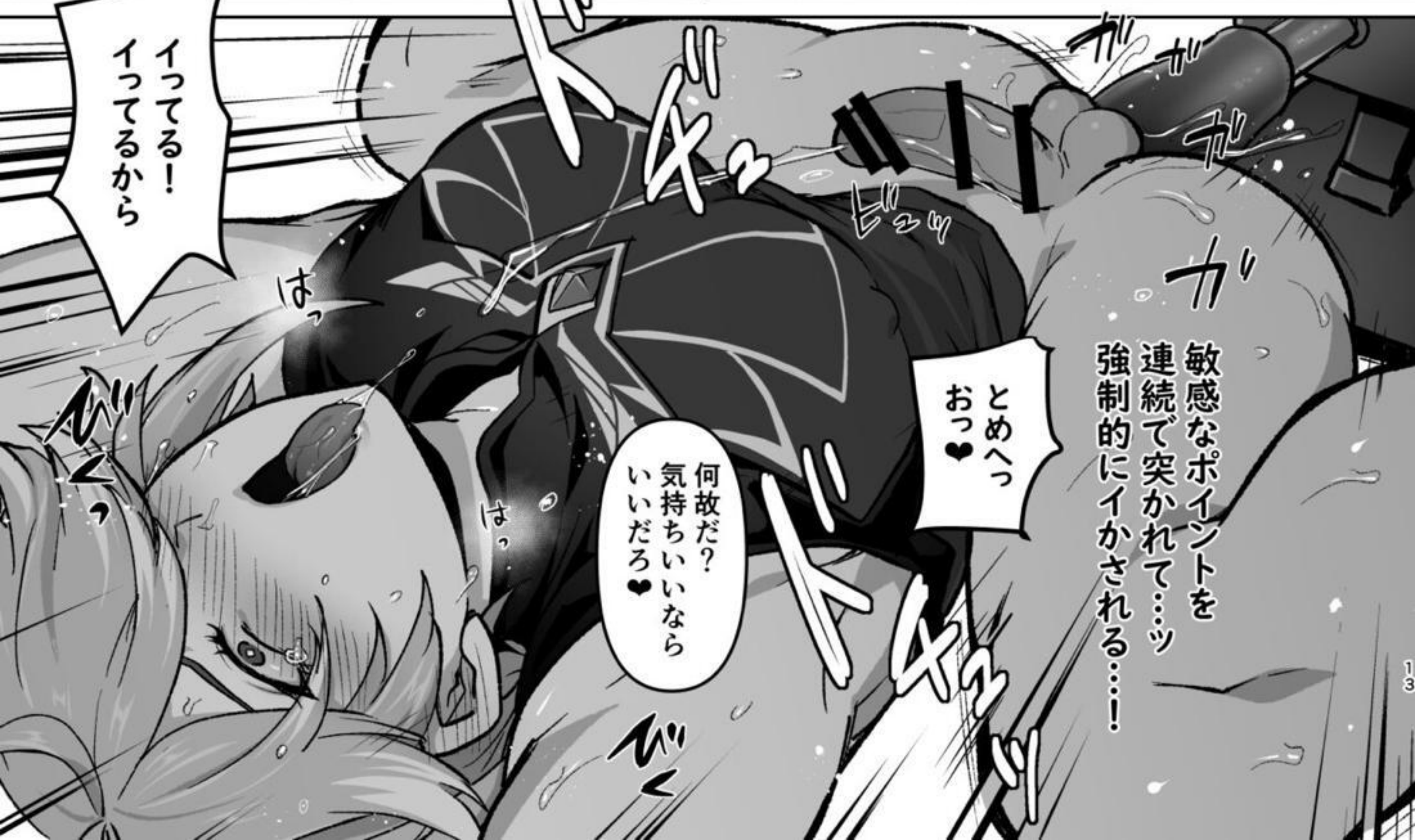
んほッ♥おっ♥

メラックに固定されて
下半身の身動きが
出来ない……ッ

逃げられな……

イクッ

カーヴェ



いってる！
いってるから

とめへっ
おっ♥

敏感なポイントを
連続で突かれて……ッ
強制的にイカされる……！

何故だ？
気持ちいいなら
いいだろ♥



お…俺の
想定では
今頃

イクの
止まらないイッ！
こんな
暴力的な快感
想定外ッ



想定が甘かった



俺が主導権を
握って

カーヴェの抑圧された
衝動を引き出した
すべて受け入れた
うえて…

両想い
甘々セックスして…



カーヴェもまた

アルハイゼンとは
違う形で想いを
拗らせている

アルハイゼンを

大切にしたい

壊してしまいたい



2つの矛盾した
欲望を抱えている

破壊衝動の方を
俺に向けて
いるのだろう

まよ……っ

僕のマシンで
アルハイゼンが
あんなに乱れて……

ほ……本物の俺には
こんな激しい責めなど
怖くて出来ないはずだ



想定とは
少し違う形だが

どこにも
向けることの出来ない
カーヴェの衝動を
引き出し……っ

受け止められるのは
世界の異物である
俺だけだ

カーヴェに求められ
壊されるなら
本望……っ

…気絶した？
強くしすぎたか

本物の
アルハイゼンに
使う時は気を
つけないと…

とりあえず
風呂に
入れないと
あと水とか
果物でも…

ん？

ま…
まだだ

足りない…
もっと

さんざん道具で
耕したんだ

もっと見たい…
知りたい

カーヴェの…
俺にしか
見せられない姿を

種の一つくらい
蒔いていったらどうだ

はは…

なんて
ふてぶてしい
チン媚び…

へばったかと
思ったけど
元氣そうじゃ
ないか

トイレで処理
しようと思ったけど
そんなに言うなら
使わせてもらうよ



いっぱい
ほぐしたから
ふかふかの
トロトロだな

き...きた...っ
ずっと焦がれていた...

はっ
びるるる
ドキ
愛する
カーヴェ...の...
お...
はっ



カーヴェで
腹が満ちて...っ

熱い...これ...
まずい...

はー

動くよ



お...おああ!?
長...っ

圧倒的なオスを
見せつけられて

身も心も
屈服する♡

アルハイゼン……ッ

機械による
快感とは違う
心からの絶頂……!

思考が
焼ききれる♡

多幸感で





カーヴェ
好きっ♡

好きっ♡

好きだ♡
カーヴェ♡

共同研究していた
あの時から俺は
君のことが

ずいっと...

な.....っ!?

.....

はっ
はあ

はあ
はあ

はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

媚びるな！
アルハイゼンはい
そんな事言わない！
解釈違いだ！

死ね！
ちんぽで死ね！
改心しろ！！

ここ
これがカーヴェエの衝動
俺にはない熱さ
男らしい♡かつこい♡

ご…ごめんなさい
おっ♡んおっ♡

アルハイゼンの
顔と声で
そんな事言われたら

アルハイゼン…ッ
アルハイゼンッ

はっ♡

あ♡

チッ
ッ

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

くっ

あっ♡

あっ♡

はっ♡



ムッムッムッ

も♡しぬ♡
イギじぬ♡♡

世界から
消えるまえに

カーヴェの
ちんぽで
廃人になって
しまう……♡♡

ムッムッムッ

イッ

ムッ

ムッ





アルハイゼン…
大丈夫か？

…今度こそ
本当に
へばったか

う…♡

あ…♡

途中で好きって
言われたけど…この子は
世界樹のバグで
生まれたいらしいし

僕を好きな気持も
きつとバグ…
なんだろうな…

本物の
アルハイゼンが
僕を好きだなんて…
あり得ないし
はは…



記念に
もうちょっと
触っておこうかな…

続

おまけの何か



カーヴェはドライな部分があるので
赤いアルハイゼンをアルハイゼンとは認識していない
別物、いずれ消えるものとして割り切っている
だからアルハイゼン(本物)にしたら引かれるだろうな…というプレイが出来た



赤いアルハイゼンもそれ(本物には出来ないようなプレイを自分にしてくる事)を求めているのでお互いハッピーだったりする



カーヴェもおそらく教令院時代から
アルハイゼンが好きだけど告白できてない
庇護欲と加虐欲を拗らせている
たぶんアルハイゼンへの劣情で精通した

一方その頃
教令院に出勤した
本物のアルハイゼンは…

カーヴェエへの恋心
今の俺には
見えていないが
確かに有るのだろう

本来なら正体不明の
もう一人の俺を
カーヴェエと2人きりに
する選択などしないが…

もう一人の俺の
動向を観察すれば

恋心を自覚出来る様に
なるかもしれないからな…

……？

何だ…？
口の中に違和感が…

んぐ…
喉の奥が
詰まる…

不快では
ないか
これは…

自慰の最中…

口寂しい時に
ディルドを
しゃぶっている時
のような…



家から出ないと
言っていたはずだ

おそろしくカーヴェと
ナニかをしている

い…いくらカーヴェが
好きだとしても
事を進めるのが
早すぎるのでは…
俺が恋愛をすると
こうなるのか…?

エネマグラを
使っている時の
比ではない快感が
押し寄せて…

ふ…お♡

思い当たる要因は…
もう一人の俺の存在…

感覚が共有
されているのか

この感覚…
自慰ではないな



す♡凄いい♡
自慰と全く違う
エグいメスイキ♡

あ...ぐ♡♡

どろろ

...



おおお!? イグ♡
いったのにまた
イクツ♡
いかされるッ♡

イツツグ♡

アカ

おオツ♡
おおお♡



な…なんだこの
暴力的な快感は…ッ

執務室で
これはまずい

どこか人が
来ない場所

やっやめ♡止まっ♡
おおっ♡おおっ♡

ハッ♡
ハッ♡
ハッ♡



書記官様
いらっしやい
ますか？

書類を
確認して
頂きたくて…



…



…入れ

失礼します



「くり…」
何か今日の
書記官エッチだな…

ふむ

この書類は
■の要項を
満たしていない

申請は
通らないだろう



用件は済んだなう
退室してもらおう

え…あ…
はい…!!

しっ
失礼します!

……
どう



んぐ…ツ♡

んおおお♡
おおおお♡
おおおお♡

んんん

気を抜いたら
一気に絶頂があッ



落ち着け
深呼吸して…

う…お…♡♡

おほおおん♡
ほ♡イクイク♡
イグウウウん♡

おおお♡♡
おん♡んおお♡



き 緊急事態だ
これでは仕事にならない

早急に帰宅して…



ま…まずい…
メスイキ
止まらない♡



まるで俺自身も
カーヴェとセックス
しているような
錯覚をしてしまう



頭にカーヴェの姿が
チラついてるな...
もう一人の俺の
影響だろう

イカ

イカ

は



この高揚が
恋心による
ものなのか...
検証しなくては



性的興奮とは
違う高揚感...
これが恋...?

しゅん

しゅん

エロ...

もう一人の俺が
感じているこの



アヤ

アヤ

あ...アルハイゼン?
もう帰ってきたのか!
は...早いな!おかえり!

な...何か
問題でも
あったか?

はあ...何とか
帰宅出来た

はあ



はあ

ただいま...



カーヴェ…ん…
俺の世話は不要だと
言ったはずだが

こい…はいや…
この子がっやして
欲しいっや…

ほう
随分丁寧に世話を
してくれた様だ

おかげで俺も
気持ち良く
仕事が出来たよ

へ？

想定通り
もう一人の俺が
カーヴェに迫ったか

迫る際に想いも
伝えたかは不明だが
カーヴェは俺の誘いを
受け入れた様だな

であれば…

まさか…!!
さっきまでの
アレ全部
君にも
伝わってた!?

そうだ
端的に言って俺は今
発情している
原因が君たちなのは
言うまでもない

君がそっちの俺に
注いだ精子と同じぶん
俺に注いでもらおう

だから…



むしろ…

アルハイゼン
何かいつもと
様子がおかしい…

あの子の
存在のせいかな？

で…でも本物の…
僕の知ってる…
アトルハイゼンが…
誘って来ている

か…



だって君…
君は…その…
嫌じゃ
なかったのか？

さっきの
乱暴な…

確かに少々
不快が強すぎたが
不快ではなかった
むしろ



えっ!?



俺は
そっちで
休む

ディルドで
発散しても良いが
俺も君としたい

そっちの俺には
散々欲望を
ぶつけたのだから
同じこと…俺にも
出来るはずだ



こんな
据え膳…

この期を
逃すなど
僕の感性が
叫んでいる！

あの子も
感性に従えと
言っていたな

よし！

分かった



カーヴェ？

一旦
抱いてから
考えよう！

ちゅる

んむ

は…♡

ん

ん



同居を
始めてからは

そういえば
アオニを始めたのは
共同研究が破綻して
カーヴェと話さなくなって
からだつたな

心地良い
足りなかった何かが
埋まっていくような
感覚...



カーヴェのことを
おかずにすることもあった

俺はずっと
カーヴェエを
欲していた...

肉体も精神も
明らかに
悦んでいる

おっ
はっ
はっ

今まで意図的に
気づかないだけで

消えたと
思ってた
恋心の中
に確か
った

気持ち良い？
アルハイゼン...

やっと理解して
きた...

おっ
♡♡♡

わっ
わっ
わっ



な...何故

おっん♡

弱俺の♡

突的い確へ♡

キスしながら
奥突かれると
すぐイク♡

思考が飛ぶ♡
考えられなくなる♡

さっき
たっぷり
予習した
からな♡

キスハメも
好きだよな



ほらこれ好きだろ♡♡

好き...♡♡♡

俺の知らない好きなどころ全部知られてる♡♡

おっ♡♡♡

ほおおん♡

んお♡



容赦なく孕ませようとする圧倒的オスの威厳に

大切にすから... 僕のものになって♡

屈服してしまおう♡

僕のことだけ考えてっ♡



なりたい♡ カーヴェのものに♡

カーヴェ♡

カーヴェのメスに...♡

カーヴェ♡♡



アルハイゼン♡
アルハイゼン♡

もっと僕の
名前呼んで♡
アルハイゼン♡

カーヴェ♡

はっ
はちゅっ

カーヴェ♡

カーヴェ
好きで満たされる♡
ばかになるう♡

カーヴェ♡

んおお♡

おっ♡
カーヴェ♡



拗らせた初恋を
ようやくく自覚
したのだから

俺は

だが
悪くない
結果だ

休んでいたのに
快感が俺にも
伝わって...♡
死ぬ...♡

はみ
はみ
はみ

まったく
恋とは
不可解な
ものだ

君はいつも
俺の想定を
越えた結果を出す

俺にあれだけ出して
オスを見せつけ
更に本物の俺をも
屈服させるとは

ああ…
はは…

いっぱい
出た…♡

アルハイゼンが
えっちすぎて…

自分のことなのに
理解して
制する事は難しい

想定外に次ぐ
想定外

興味深い



カーヴェ
さっきの
話だが

な…
何だい？

大切にしてく
れるんだったか？

ハッ?!
き…君覚えて…

なんだ
ベッドの上の
戯言だったか

ち…違っ
勢いで言ったけど
僕は本当に…
あっいやその前に告白…

もう二人の
アルハイゼン
によって

長い間
両片想いだった
二人の関係が
動き出した…♡



END

おまけマンカ

本物

良いだろう

先にいったら負け
勝った方が
最初にカーヴェに
ハメて貰える

赤ゼン



俺の前立腺...
弱すぎる...っ

感覚共有
してうるSP
地獄

はっ

想定外っ
快感キャパオーバーだ...っ

最高に
いい眺めだけど
早く勝負
決めてくれ
ないかな...



※アルハイゼン同士
仲が悪いわけではないが
3Pをすると快感で失神するため
順番にしなければならないのだ...!

先輩が大好きな後輩と
先輩が好きかもしれない後輩が
先輩とハチャメチャエッチする話

発行

2024/02/11

オルガムスラップ/いちのみるく

mail : 123os1919@gmail.com

印刷

ねこのしっぽ様

3冊目のカヴァリアル本になります。

この漫画は赤目ハイゼンに酷いことをしたい♥機械姦したい♥アルハイゼン同士でエロい感覚共有させたい♥という動機から始まったのですが、最終的には何となくいい話になったような気がします。良かったです。

アルハイゼンには教令院時代にカーヴェと決別した時のこと何だかんだで引きずってて欲しいな…

という思いもあって赤目ハイゼンの生まれた理由に絡めてみました。

チクリと刺さったあの頃のカーヴェという小さいトゲが抜けないまま過ごしている、みたいなエピソード

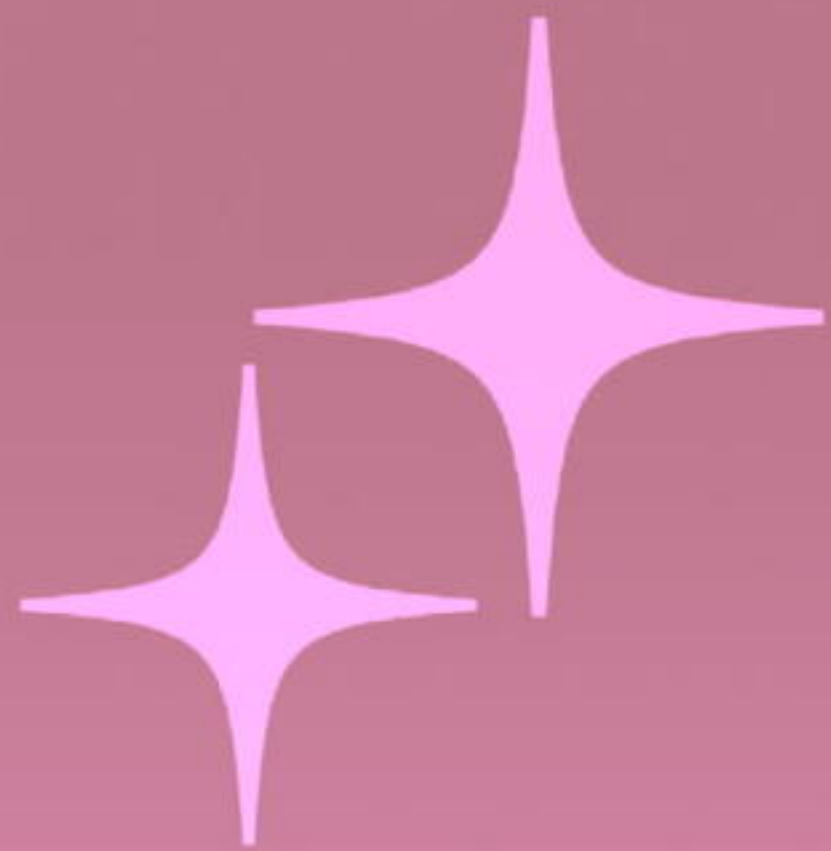
入れたかったですがエロシンの邪魔になるなと思ってほのかに匂わせる程度にとどめました。

楽しんでもらえたら嬉しいです。

この本を買って下さったあなたと、クリエイター支援サイトでご支援して下さった皆様に感謝いたします。

この本は非公式ファンブックです。
無断転載・複製・複写を禁止いたします。

ネットオークション、フリマへの出品はご遠慮ください。



Genshin Impact Unofficial fanbook

